

長期目標 （期間:12か月）	安心・安全に入浴でき、今後も在宅生活を送る事が出来る
---------------------	----------------------------

課 題	短期目標		具体的な援助内容・方法		頻度
	目 標	期間	内 容	方法	
安全に入浴を行いたい	転倒の危険なく、移動することができる	R5.7. 1～R8.6. 30	①体調確認 ②移動方法の確認と準備 ③環境整備 ④安心する声掛け	①バイタル測定。数値に異常が見られた際は看護師に報告、相談。【不調な場合】いつから、どこが痛むのか、どのような不調なのか聞き、その旨看護師に報告、相談。 ②その日によって歩行の状態が異なる可能性ある為、ご本人様が不安なく移動できる方法を提案、確認する。 歩行にて移動出来るかシャワーチェア使用し移動するか確認。 【歩行の場合】立ち上がり補助具を健側に設置する。 【シャワーチェアの場合】冷たいと不快なため座面の水気を拭く。 安全に使用できるか（ブレーキ等）の確認を行う。 ③歩行にて移動の際は、床が濡れている事による転倒を防ぐため、水気をしっかりと拭き取る。 歩きやすいように動線の確保をする。タッチアップの位置が適しているかの確認する。 ④歩行時患側に立ち、付き添いを行う。ふらつきある為、「横で支えていますからね」や「ゆっくりで大丈夫ですよ」など転倒の不安に寄り添った声掛けを行う。	①毎日 ②脱衣前 ③移動前 ④適時
	自立支援を継続して行う事ができる	R5.7.1～R8.6.30	①着脱時、ご自身で出来るところは行っていただく ②仕上げやお手伝いが必要な際は介入する	①タッチアップを健側に設置。立ちやすい位置かご本人様と確認。 「〇〇〇することはできますか？」と声掛けにてご本人様のペースで自立支援を促し、患側にて見守る。 ②ご本人様に声掛けし、同意を得てから介入する	①・②随時
	皮膚の乾燥に注意し、不快な気持ちを軽減することができる	R5. 7. 1～R8.6.30	①皮膚の観察 ②看護師と連携し、適した処置を行う。 ③清潔保持	①羞恥心に配慮しつつ、全身の皮膚確認を行う。また、痒みないかご本人に伺う。 ②皮膚状態に異変があったり、ご本人より軟膏塗布の希望の際は看護師に報告する ③洗い残しや流し残しがないよう声掛けで確認。 着衣の前にしっかりと水気を取る	随時 ②必要時
安心してコミュニケーションを図りたい	入浴中、楽しく過ごす事が出来る	R5.7. 1～R8.6. 30	①落ち着いた環境の提供 ②入浴を行うことへの認識や気持ちを再確認 ③興味のある話題の提供 ④分かりやすい声掛けやコミュニケーション方法を行う。 ⑤羞恥心の配慮	①ゆっくりと落ち着いた口調で話す ご本人様のペースに合わせゆっくりと待つ。 脱衣室の温度が適切か確認。 ②初めに、今から入浴を行う事に納得されているか声掛けにて確認する。頷かれていても表情や目線を観察し、本音を探る。 【納得されていない場合や拒否が見られる場合】 森林やお花の匂いの入浴剤を用意した事をお伝えし勧める／清拭や足浴を勧める ③一方的になりすぎないよう注意し、ハイキングや野草の会話をする ④上手く発語が出ない時には「はい」「いいえ」で答えられる質問や声掛けを行う。「はい」の時は右手を、「いいえ」の時は左手を職員の手を握っていただくようお声がけする。 ジェスチャーやイラストを活用。 ⑤尊厳をもった対応をする。肌が露出する際はバスタオルを身体にかける 答えに時間がかかっても不安を感じないよう「ゆっくりでいいですよ」と待つことをお伝えする。	①～⑤随時